



2004 年度前期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果

発行：法政大学 全学FD推進委員会 2004 年 11 月

学生による授業評価アンケートの概要

法政大学では、6月下旬から7月中旬までの3週間にわたって、「学生による授業評価アンケート」を実施しました。こうした全学規模でのアンケートは、本学では初めての試みです。アンケートの対象となったのは、学部、大学院修士課程、専門職大学院学位課程で開講された前期科目です。ただし、アンケートが適当でない判断された科目は実施していません。また、社会学部のように、前期は試験的に参加した学部もあります。後期科目および通年科目は、後期に同様のアンケートを実施します。

大学全体では、3,123 科目で実施され、延べ 125,028 の回答がありました。アンケートにご協力いただいた学生、大学院生の皆さんに感謝いたします。回答いただいたアンケートは、すべてデータとして処理され、タイプした自由記述と共に各教員に通知されています。なお、教員はアンケート用紙そのものを見ることはできないことになっています。

授業評価アンケートのねらい

「法政大学学生生活白書 2003」によると、「最も充実・改善を望む教育・サービスはどれですか」という問いに対して、58.9%の学生が「授業内容・授業方法」を挙げ、項目の1位になっています。市ヶ谷、小金井、多摩の各キャンパスでもすべて50%を超え、正課授業の改善は急務であると言えます。

今回、「学生による授業評価アンケート」を実施したのには、二つの大きな目的があります。一つは、教員が学生の率直な意見や感想に耳を傾け、受講生の立場から自分の授業を知ることです。もう一つは、こうしたアンケートを実施することで、大学全体で授業内容や授業方法の改善に取り組むためです。いずれも、大学の教育の質を向上させようというねらいがあります。

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みを「ファカルティ・ディベロップメント」(Faculty Development 略称FD)と言います。法政大学でも、2003年11月に「全学FD推進委員会」を設置し、FD活動を開始することになりました。

学生による授業評価は、すでに国内の大学では広く行われています。2002年度に学生による授業評価を実施した大学は、国立大学 97(98%)、公立大学 61(81%)、私立大学 416(81%)で、全体では574大学(84%)に上ります。

アンケート結果の公開について

学生のみなさんは、自分が受講した授業の評価について関心があると思います。また、他の授業の評価を知り、履修の参考にしたいと思うかもしれません。しかし、全学FD推進委員会としては、今回のアンケートについて科目ごとの結果を公開しないことにしました。法政大学における授業改善の試みは始まったばかりで、今回のアンケートがスタート地点です。今回は結果の公開よりも、アンケートの内容が実際の授業に反映されることを期待しています。今後も公開については検討していきま

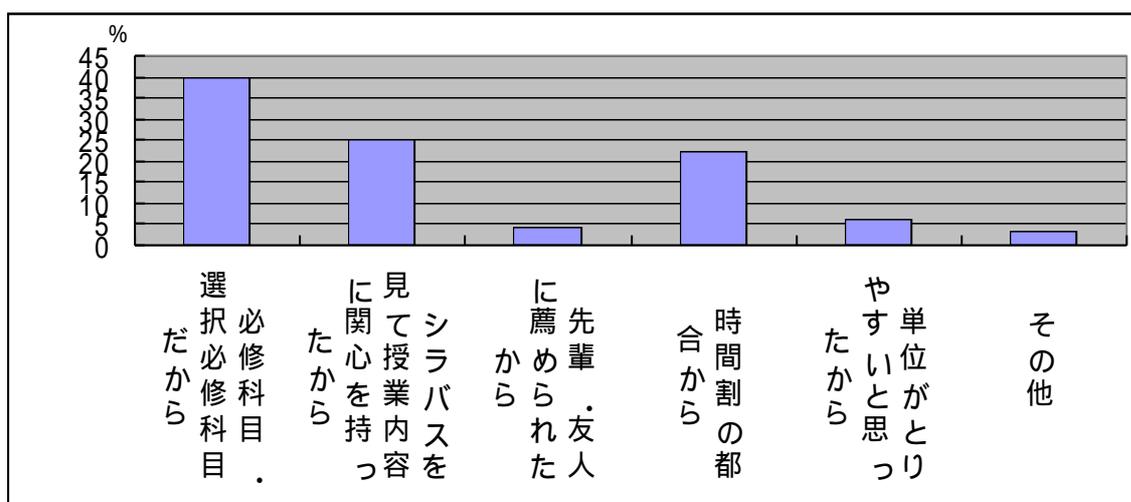
すが、学生のみなさんにはご理解いただきたいと思います。

全学集計結果 (2004 年度前期)

1. 履修の理由 - 「単位のとりやすさ」よりも「授業内容」と「時間割の都合」から

授業を履修した理由(複数回答可)は、「必修科目・選択必修科目だから」(40.0%)が最も多かった。「シラバスを見て授業内容に関心をもったから」(25.3%)「時間割の都合から」(22.1%)が続き、「単位がとりやすいと思ったから」という回答はわずか6.3%しかなかった。時間割とシラバスが履修の決定に大きな役割を果たしていることがわかる。

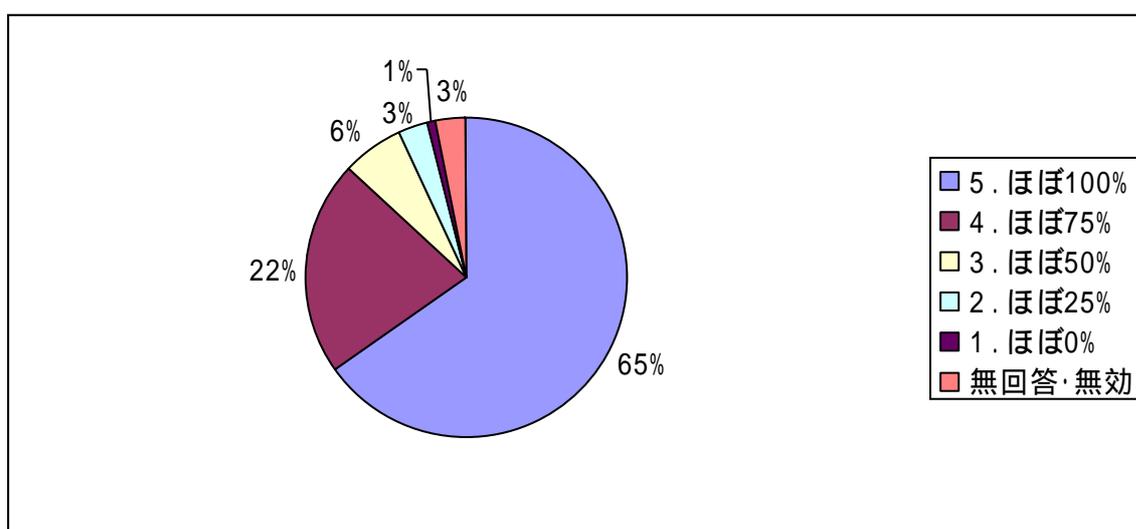
問1. この授業を履修した理由を教えてください(複数回答可)



2. 授業への出席 - 回答者の出席率が高い

授業への出席率は科目の種類によって異なるが、全体では「ほぼ100%」と「ほぼ75%」を合計すると87%になり、アンケートに答えた学生の出席率は総じて高いと言える。

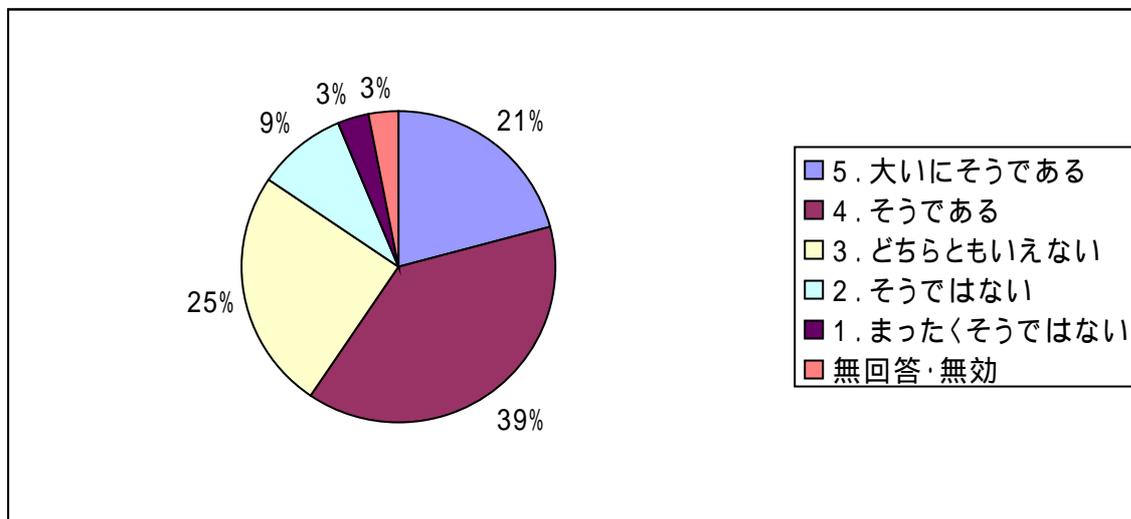
問2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。



3. 授業への取り組み - 出席することが取り組み?

この問は、本来授業内容への取り組みを問う設問である。約 6 割の学生が授業に積極的に取り組んだと回答しているが、これを出席率別に見ると、出席率が高いほど積極的に取り組んだと回答する割合も高くなっている。

問 3 . あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

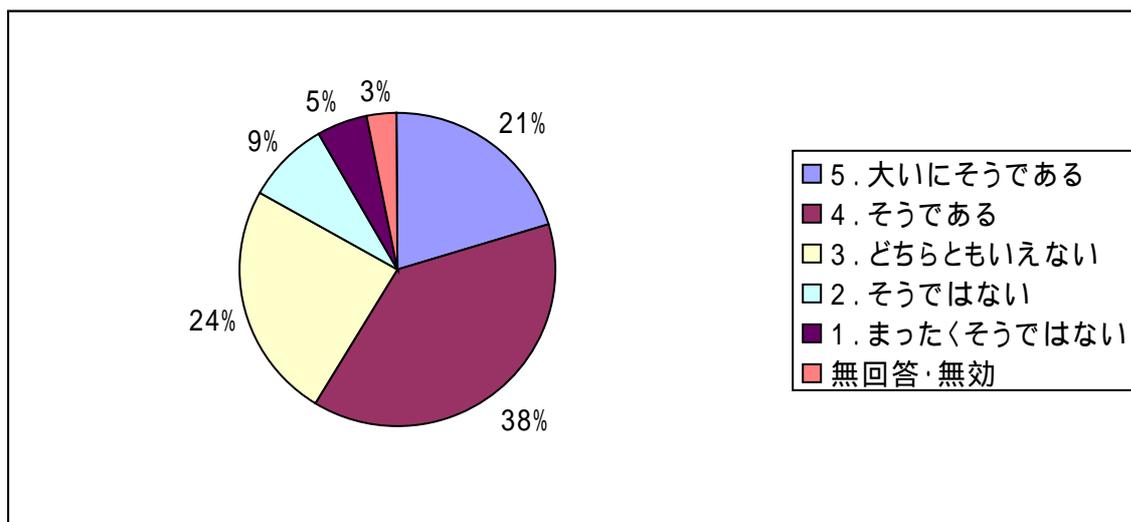


4 . 授業内容には 6 割が興味示す

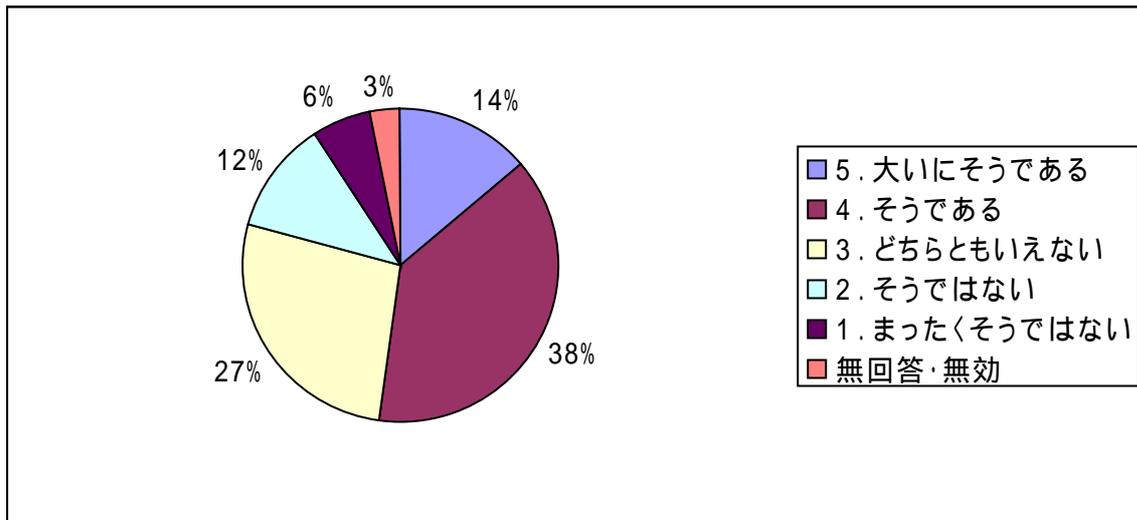
5 . 内容の理解は、半数止まり

ほぼ 6 割の学生が授業内容に興味を示し、約 5 割の学生が内容を理解できたと回答している。しかし、75%以上授業に出席した学生に限ってみても、その 4 割は授業に興味を持たず、2 人に 1 人しか内容を理解していない。

問 4.この授業の内容に興味が持てましたか。



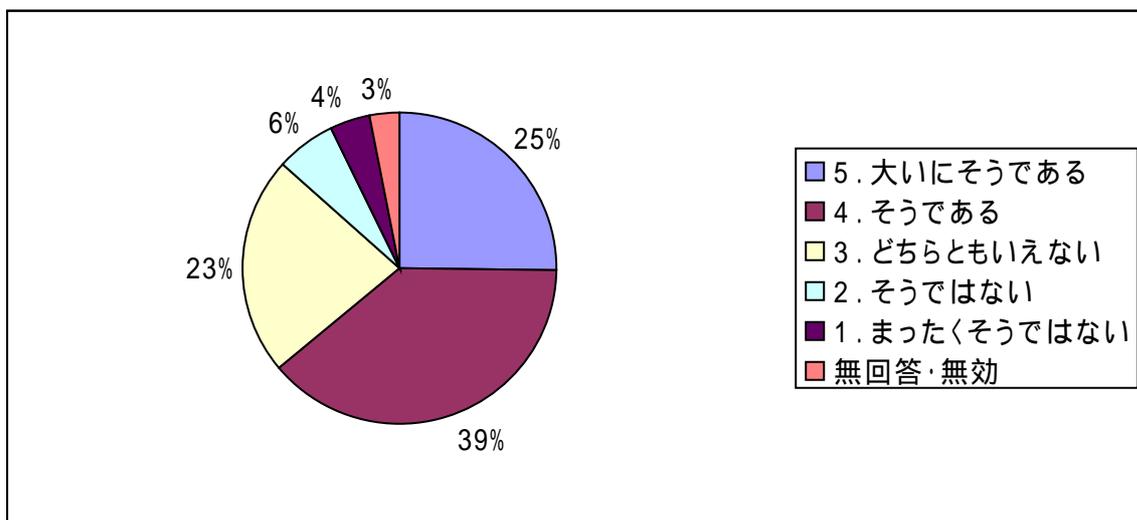
問 5 . この授業の内容は理解できましたか。



6. 教員の熱意 - 4人に1人は熱血教員

「大いにそうである」(25%)と「そうである」(39%)を合わせると、およそ6割の科目で教員の熱意が学生に伝わっている。その一方で、23%の科目では、それほど熱意が感じられず、10%の科目では教員の熱意がないと学生は判断している。

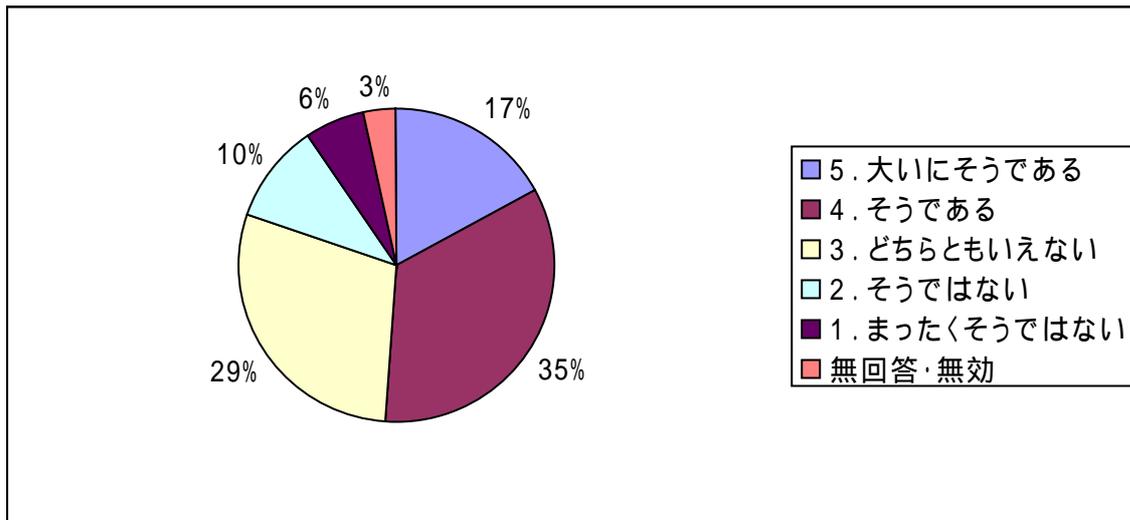
問6. この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。



7. 授業のわかりやすさ - 16%はわからない授業

高校までのカリキュラムに沿った授業や塾・予備校のわかりやすい授業を受けてきた学生にとって、大学の授業が難しいことは十分に予想される。高度な内容であっても、学生がわかるように伝えるのが教員の技術である。アンケートの結果、52%はわかりやすい授業である。しかし、「そうではない」と「まったくそうではない」を合わせた16%の授業は、わかりにくい授業であり、教え方について改善する必要がある。

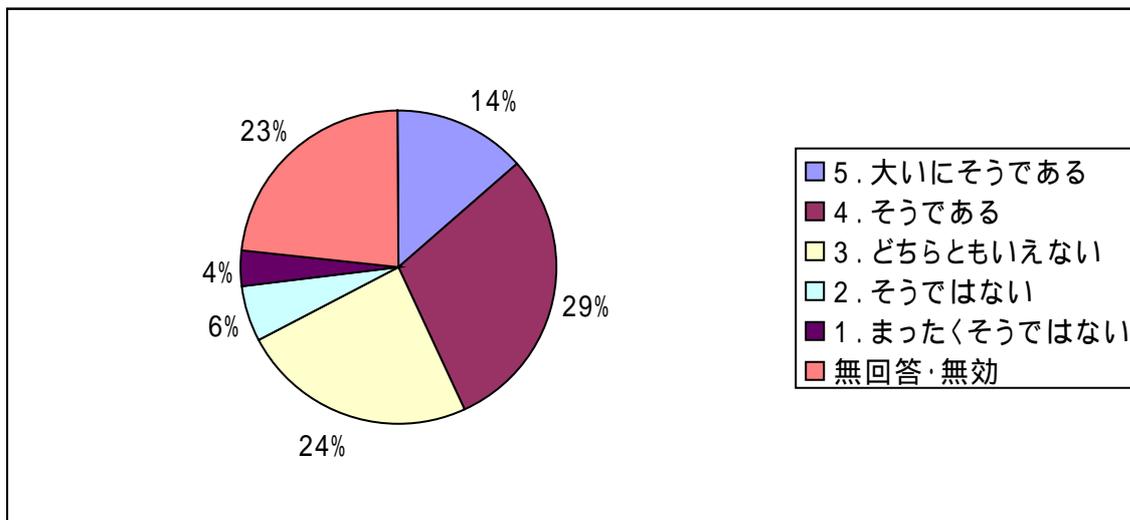
問7. この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。



8. 使用教材 - 4 割は適切とは感じられず

無回答・無効の 23%を除くと，使用教材が授業の内容理解に適切と回答した割合は，約 56%で，およそ 4 割の授業では適切とは感じられていない。「何を」教材にし，「どのように」使用するかについて，教員は今一度考えてみる必要があるだろう。

問 8 . 使用教材はこの授業の内容を理解するのに適切でしたが(教材を使用していない場合は回答しなくてよい)

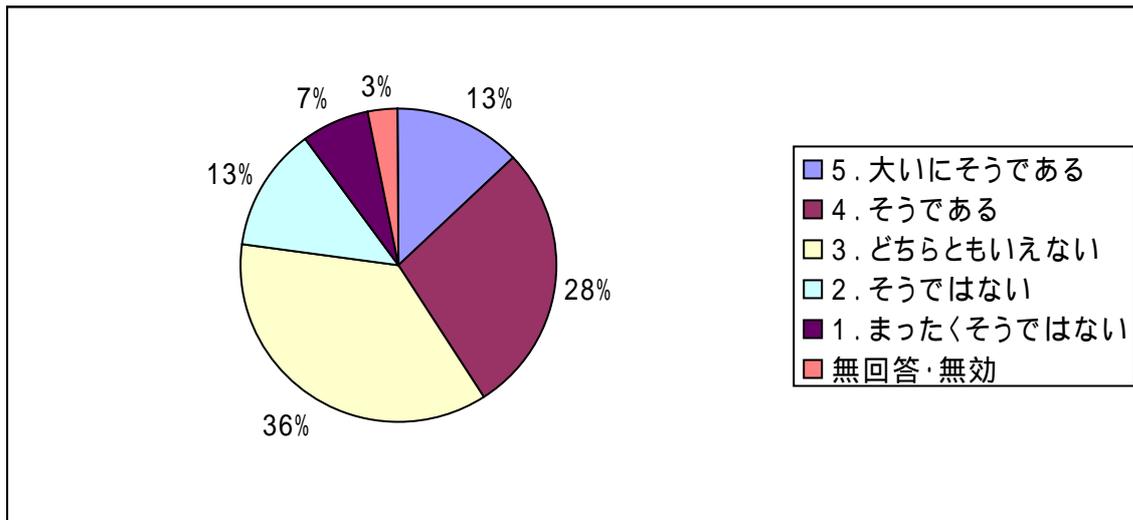


9. 学生の参加意欲を促す授業か? - 4 割が参加を促す

大学には，講義科目以外にも，演習，外国語，実験，実技，実習などの科目がある。学生の参加を前提とする科目とそうでない科目があると一般には考えられている。しかし，講義科目でも，学生に課題を与えてグループで討議させたり，学生に問題を発見させる講義もある。また，演習や実習で，教員が一方的に講義をしたり，学生がやらされている場合すらある。

アンケートの結果，およそ 4 割が学生の参加を促しているものの，大半の授業が教員から学生への一方通行で行なわれていることがうかがえる。

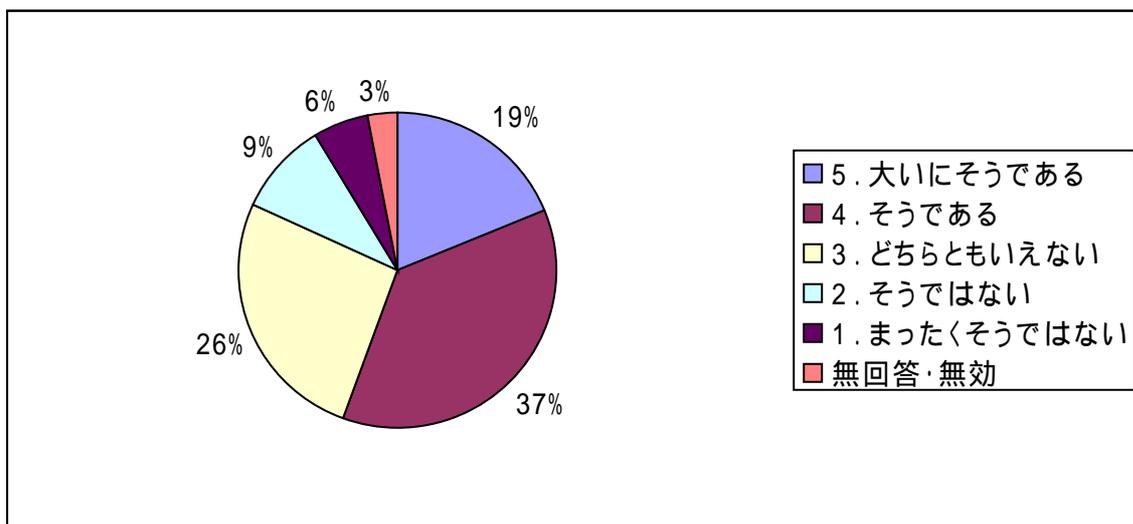
問 9 . この授業では学生の参加意欲が促されるような工夫がなされていましたか。



10. 授業の満足度 - 56%が満足

56%の授業は満足のいくものであるが、15%の授業は何らかの理由で学生の不満がある。授業の満足度は、受講生の側から見た一つの指標である。学生がどこに不満を持っているのかについて教員が知り、授業の改善につなげることができれば、満足度も上昇すると考えられる。

問 10 . この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。



2004 年度後期アンケート 実施期間

後期についても前期と同じ形式でアンケートを実施します。対象となる科目は、後期、後期集中、通年科目です（一部実施しない科目もあります）。実施期間は、原則市ヶ谷・多摩地区については 12 月 2 日（木）から 12 月 22 日（水）、小金井地区については 12 月 16 日（木）から 1 月 19 日（水）までとなっています。

法政大学の授業改善のために、皆さんの率直なご意見をお寄せください。ご協力をお願いします。

お問合せ窓口：法政大学学務部学務課(九段校舎別館 2 階)

TEL 03(3264)9929 / FAX 03(3264)9876 / E-mail : kyogaku@hosei.ac.jp



2004 年度後期

「学生による授業評価アンケート」全学集計結果

発行：法政大学FD推進センター 2005 年 5 月

学生による授業評価アンケートの概要

法政大学では、前期に引き続き、後期も「学生による授業評価アンケート」を実施しました。アンケートの対象となったのは、11 の全学部、大学院修士課程、専門職大学院（アカウンティングスクールを除く）、通信教育部のスクーリングで開講された後期科目および通年科目です。ただし、アンケートが適当でない判断された科目は実施していません。

アンケートは、市ヶ谷、多摩キャンパスでは 12 月、小金井キャンパスでは 12 月から 1 月にかけて実施されました。大学全体では、延べ 4,616 科目、143,814 の回答がありました。アンケートにご協力いただいた学生、大学院生の皆さんに感謝いたします。アンケートは、すべてデータとして処理され、別にタイプされた自由記述と共に各教員に通知されています。なお、教員は学生の皆さんが記入したアンケート用紙そのものを見ることはできないことになっています。

授業評価アンケートのねらい

大学は、学生に対して質の高い教育と人間形成の場を提供する責務があります。これまで教育は、教員の自主性に委ねられてきました。しかし、法政大学では、教員個人の努力に加えて、学部等が組織的に教育内容や方法の改善に取り組む必要があると考え、2003 年 11 月に「全学 FD 推進委員会」を設置しました。FD とは、「ファカルティ・ディベロップメント」(Faculty Development) の略称で、授業方法や内容を組織的に改善していくことを指します。

「学生による授業評価アンケート」を実施したのには、二つの大きな目的があります。一つは、教員が自分の授業をどのように受け取られているかを知ることです。もう一つは、アンケート結果を分析して、学部等の授業内容や授業方法の改善に役立てるためです。いずれも、大学の教育の質を向上させようというねらいがあります。

学生による授業評価は、すでに国内の大学では広く行われています。文部科学省のまとめでは、2003 年度までに学生による授業評価を実施した大学は、国立大学 96 (99%)、公立大学 68 (89%)、私立大学 469 (89%) で、全体では 633 大学 (91%) に上ります。

アンケート結果の活用について

2005 年 4 月からは、「全学 FD 推進委員会」に代わって「法政大学 FD 推進センター」が設置されました。このセンターは、FD 活動を推進してだけでなく、研究科、学部、学科といった単位での FD 活動も支援していくことになっています。

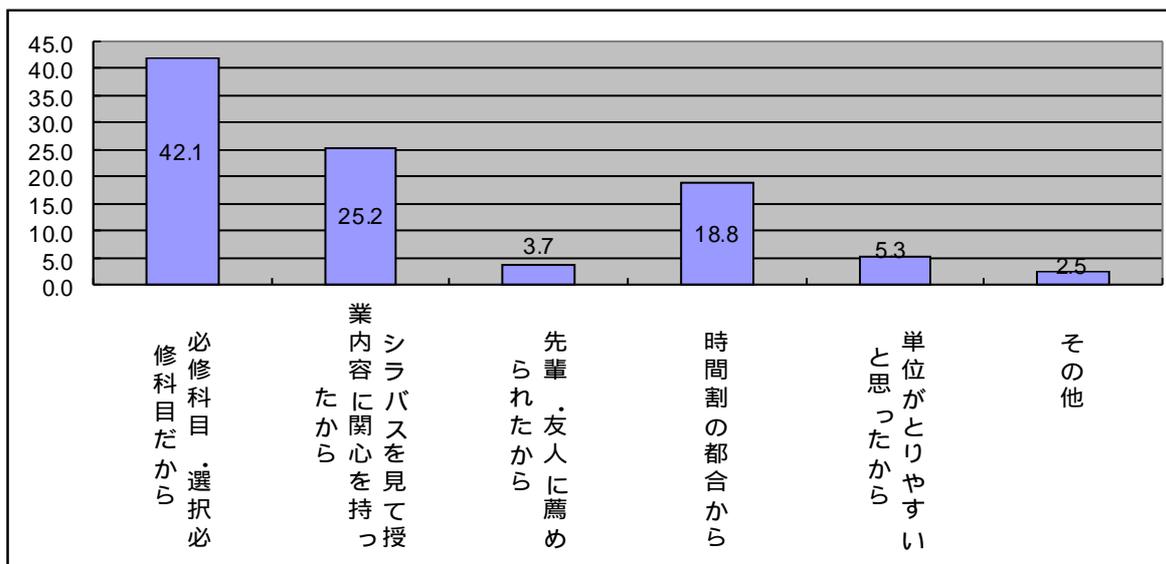
アンケート結果は、すでに担当教員に通知されています。回答してくださった皆さんの声が無駄にならないように、センターでは、教員が持つ授業のノウハウやテクニックを互いに共有できる仕組みを作っていきます。目に見える効果が表れるまでには、しばらく時間がかかると思いますが、学生の皆さんのご理解をいただきたいと思います。

全学集計結果 (2004 年度後期)

1. 履修の理由 - 「時間割の都合」と「シラバスの授業内容」から

授業を履修した理由（複数回答可）は、前期アンケート結果とほぼ同じ割合になった。「必修科目・選択必修科目だから」（42.1%）が最も多く、「シラバスを見て授業内容に関心をもったから」（25.2%）「時間割の都合から」（18.8%）が続く。「単位がとりやすいと思ったから」という回答はわずか 5.3% しかなく、時間割とシラバスが履修決定に大きな役割を果たしていることがわかる。

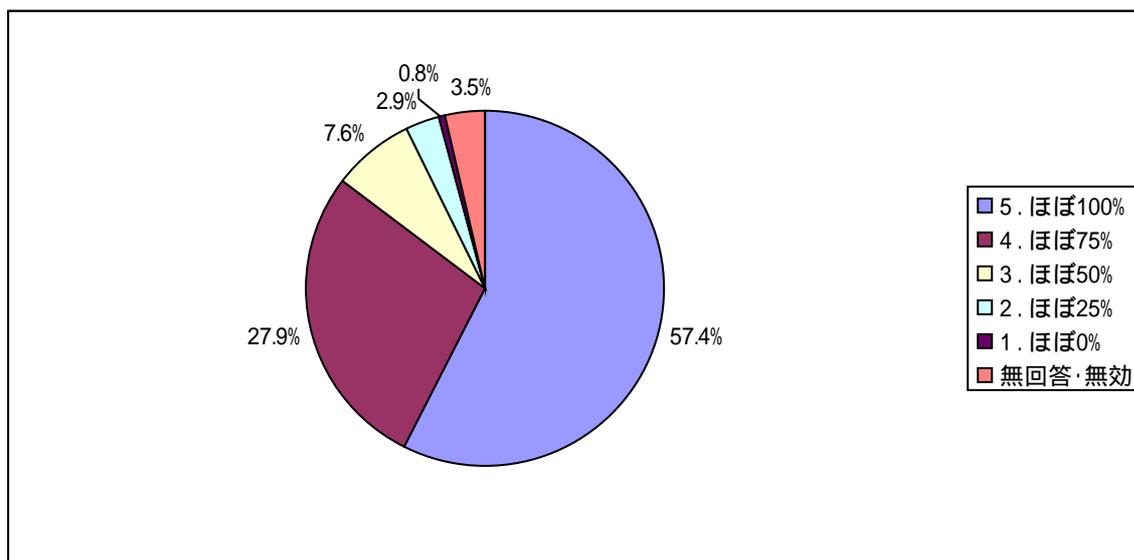
問 1. この授業を履修した理由を教えてください（複数回答可）。



2. 授業への出席 - 回答者の出席率が高い

「ほぼ 100%」と「ほぼ 75%」を合計すると 85.3% になり、アンケートに答えた学生の出席率は総じて高い。

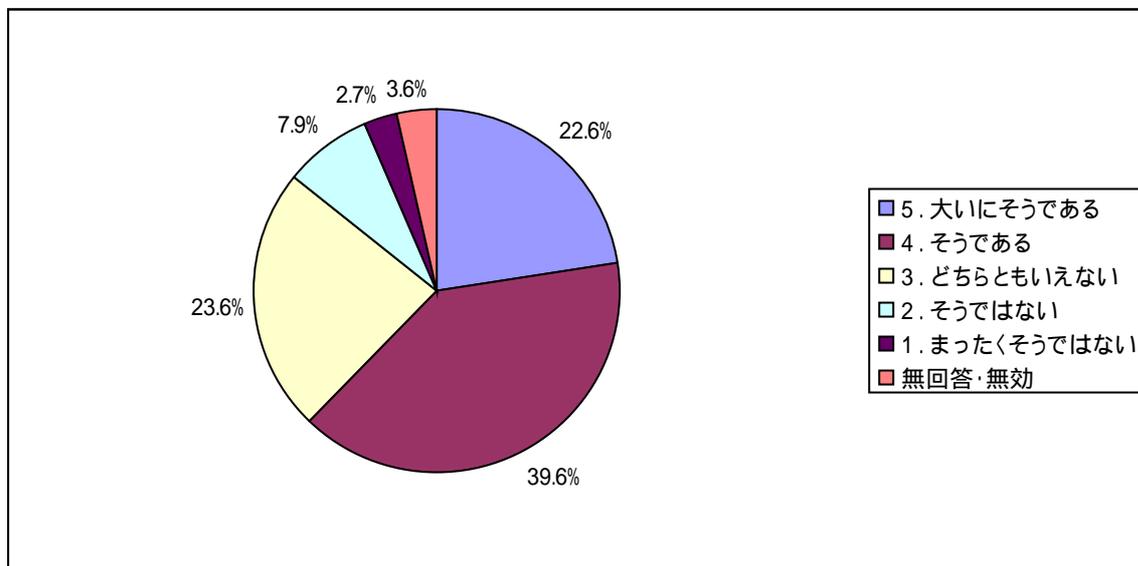
問 2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。



3. 授業への取り組み - 出席率と相関あり

全体では、約 6 割の学生が授業に積極的に取り組んだと回答しており、前期とほぼ同じ結果が得られた。出席率別に見ると、出席率が高いほど積極的に取り組んだと回答する割合も高くなっている。

問 3. あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

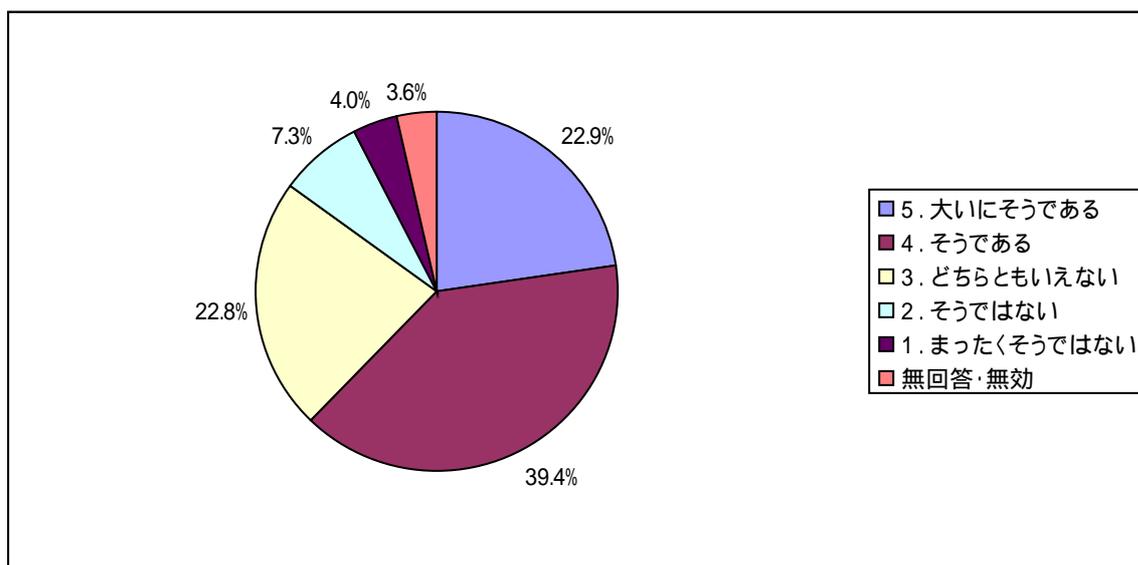


4. 興味が持てる授業が 6 割を超す

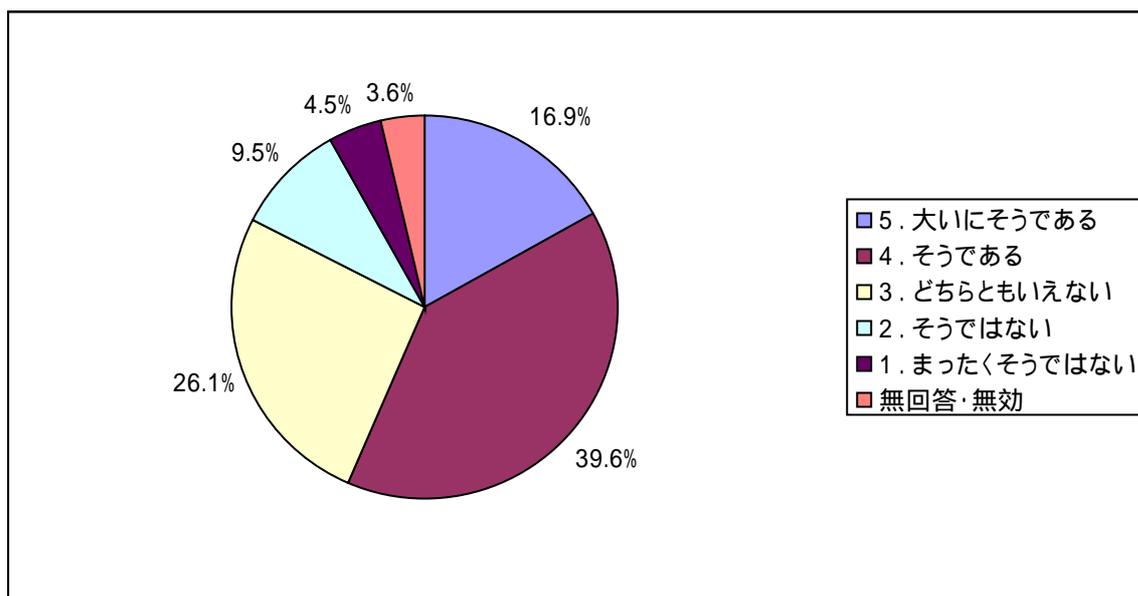
5. 内容理解は半数止まり

授業内容への興味は、「大いにそうである」と「そうである」と回答した学生の割合が、前期は 58.7%であったが、後期は 61.3%になった。一方、授業内容を理解したと回答した割合は 56.5%であったが、75%以上授業に出席した学生に限っても、その 4 割は授業内容を理解できたとは思っていない。

問 4. この授業の内容に興味を持ってましたか。



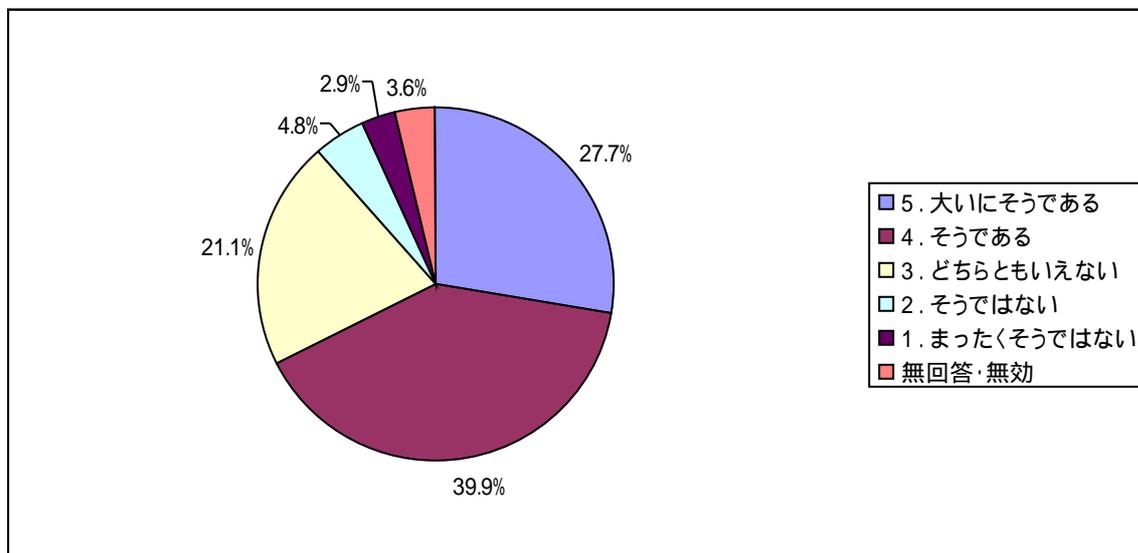
問5 . この授業の内容は理解できましたか。



6 . 7割近くの教員に熱意あり

「大いにそうである」(27.7%)と「そうである」(39.9%)を合わせると、67.6%の科目で教員の熱意が学生に伝わっている。一方、熱意が感じられないと学生が判断した科目は、前期の10.1%から7.7%とわずかながら後退した。

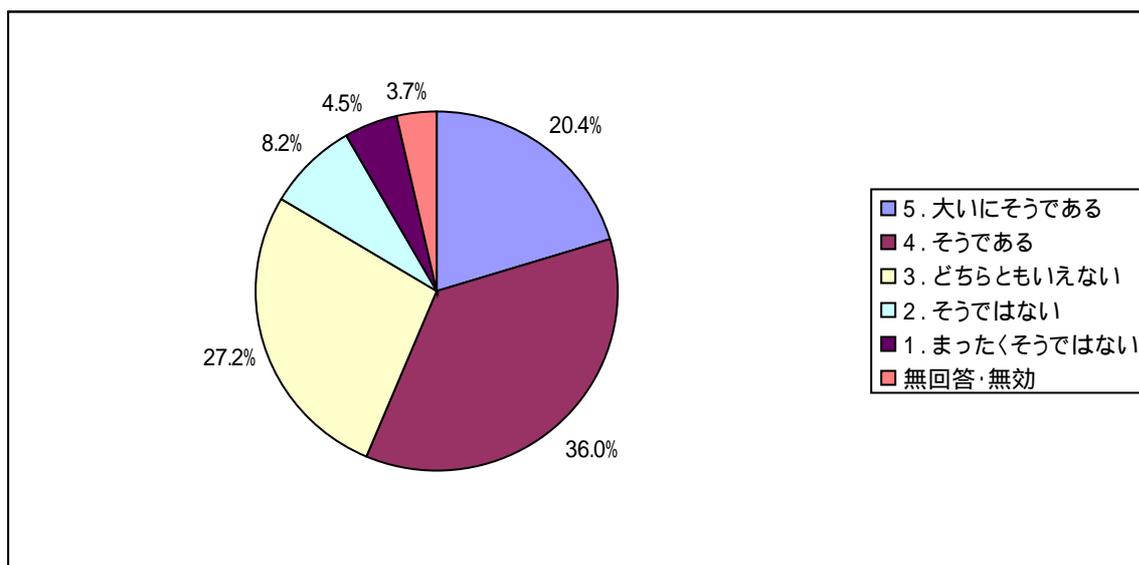
問6 . この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。



7 . 授業のわかりやすさ - 1割超はわからない授業

わかりやすさは、教え方の一つの指標である。内容の難易にかかわらず、学生にわかるように伝えるのが教員の技術である。アンケートの結果、56.4%はわかりやすい授業であった。一方で、12.7%の授業はわかりにくい授業であり、教え方について何らかの改善をする必要がある。

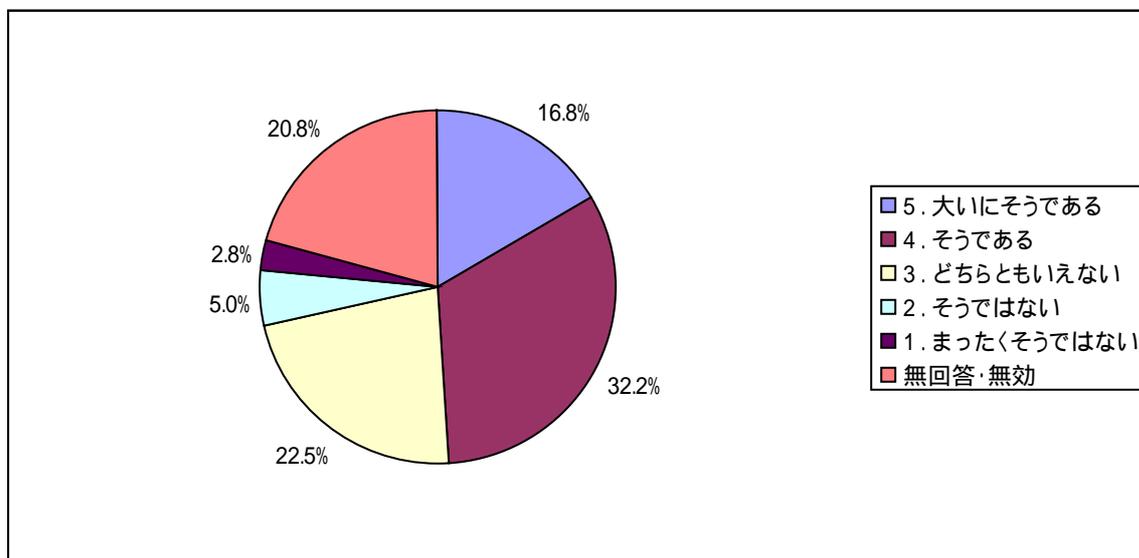
問7. この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。



8. 使用教材 - 4割は適切と感ぜられず

無回答・無効の 20.8%を除くと、使用教材が授業の内容理解に適切と回答した割合は、およそ6割で、4割の授業では適切と感ぜられていない。授業にほぼ75%以上出席した学生に限っても、この割合は変わらない。

問8. 使用教材はこの授業の内容を理解するのに適切でしたが(教材を使用していない場合は回答しなくてよい)



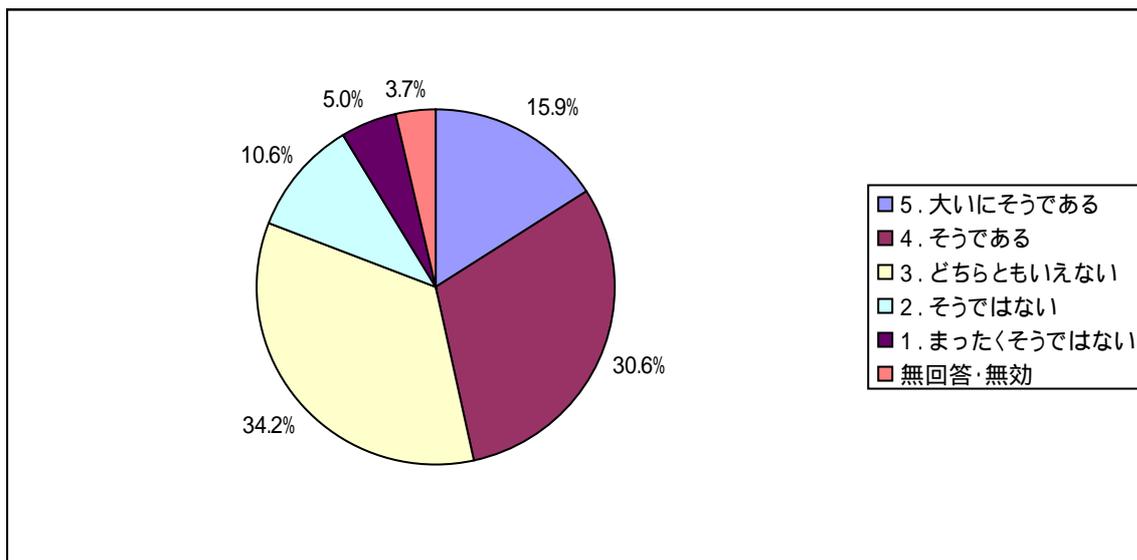
9. ほぼ半数の授業が学生の参加意欲を促す

全体では、「大いにそうである」と「そうである」を合わせると、46.5%の授業が学生の参加を促している。科目種別に見ると、実技では先の割合は7割を超えるが、参加が前提となるはずの演習では56%、語学では52%に留まる。また、教員が一方的に話すことが多い講義科目でも、12%の学生は「大いに」参加意欲が促されたと回答している。

「まったくそうではない」と「そうではない」と回答した割合は、全体では15.6%である。演習で

は、約 1 割の学生が参加意欲を持てず、実験では 12%、語学では 13%に上る。

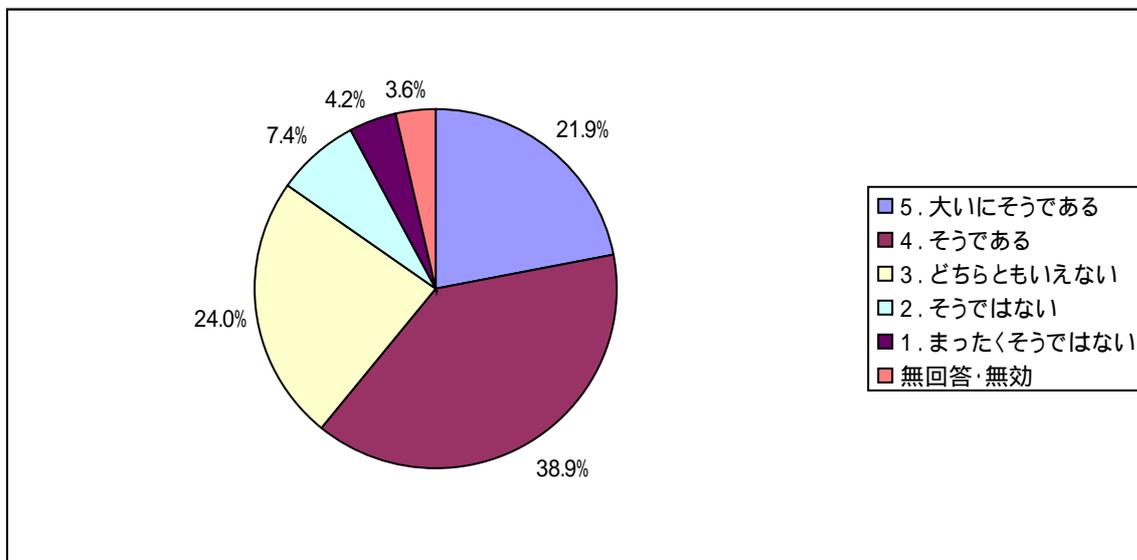
問 9 . この授業では学生の参加意欲が促されるような工夫がなされていましたか。



10 . 授業の満足度 - 6 割が満足

授業の満足度は「大いにそうである」と「そうである」を合わせると、前期は 56%であったが、後期は 61%であった。また、「まったくそうではない」と「そうではない」を合わせた不満足度は、前期が 15%であったのに対し、後期は 12%であった。満足度は、受講生の側から見た一つの指標である。学生の不満を教員が知り、授業の改善につなげることができれば、満足度も上昇すると考えられる。

問 10 . この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。



アンケートに関するご意見・お問合せ先

お問合せ窓口：法政大学 FD 推進センター事務室

TEL 03(3264)9929 / FAX 03(3264)9876 / E-mail : kyogaku@hosei.ac.jp